
逆転生活～紅一点～

玖蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逆転生活〜紅一点〜

【Nコード】

N0158C

【作者名】

玖蓮

【あらすじ】

両親の突然の離婚のためにとある男子校に通うことになってしまった芹羽。ありえない環境の中で彼女はどうやって生活しているのか？そして気付かれずに無事卒業することが出来るのか。そんな学園ストーリー。

第1話 (前書き)

この度は閲覧ありがとうございます。

小説を真剣に書くというのは初めてで、試行錯誤で始めました。

誤字・脱字・情景描写の欠如等…色々目に付く点多いかと思いきや、
すがお許しください。

第1話

あれは俺が——いや、私が中学1年だった頃。

毎日沢山の友達に囲まれて、部活も勉強も一生懸命頑張っていた時のことだった。

急に家の中の空気が悪くなって両親が離婚することになった。

すぐに父親が家を出て行き、残ったのはお母さんと私の二人だけ。お母さんは病弱で働ける状態じゃないのを知っていた。

一応父親が仕送りをしてくれることにはなっていたのだが、家賃と光熱費、食費が辛うじて払えるくらいしかなくて。

もう中学にはいられない、働くしかないんだ。そう思った。

そんな私を別の方法で助けてくれたのは親戚のおばさん——悠子さんゆうこさんだった。

「ゆう……」おばちゃん……どうしよう……」

家事を色々とやりに来てくれた悠子さんに私は助けを求めた。お母さんのこと、学校のこと、これから先のこと……。

色々押し掛かってきてパニックになったのを覚えている。

「何も気にすることないよ。芹羽せりはは今のように学校に行けばいい」

私は驚いた。

だって悠子さんの家も離婚していたから。

しかも子供全てを悠子さんが引き取ったから大変なのは知っていて、当然私の分まで学費が払えるわけがないこともわかっていた。

なのにその言葉。

私は悠子さんが何を考えているのか全くわからなかった。

「でも…」

「私の知り合いに男子校の理事をやってる人がいる。その人に話してあるから」

「男子校！！？」

耳を疑った。

でも悠子さんは私の話を聞かずに急いで家を出て行ってしまったんだ。

残された私はただ呆然とするしかなかった。

今までの友達と別れなければならない。

折角頑張ってきた勉強も部活も無駄になってしまふ。

しかも普通の学校ならまだしも…

男子校。

どんな学校なんだろう。

女の先生はいるのだろうか。

どうやって生活すればいいのだろうか。

一応思春期の女子であって、やっぱり男子校というものには抵抗がある。

益々先が見えなくなり、私は床についた。

考えるだけ無駄。

こうなってしまった今、学校に行けるといふ事実だけを受け止めなければ…。

第1話。（後書き）

閲覧ありがとうございました。

今後も未熟ながら地道に書き続けていけたらな、と思っていますので、またよろしく願います。
本当にありがとうございました。

第2話

―それから一週間がたって。

私は何事もなかったかのように生活していた。

というか、毎日が忙しくて考える暇がなかったただけの方が正しいかもしれない。

今日は何をしようかな…なんて考えていたら家のチャイムが鳴った。いつもは誰も来ないから訪問者なんて珍しい。ドアを開けてみると悠子さんが息を弾ませて立っていた。

「芹羽！もう私はどうしたらいいのやら…こんな光栄なことってないわ」

「悠子さん？意味がよくわからないんだけど…」

「まあ！もう忘れたのかい？ほら、男子校の編入の話をしただろう」
「…あ」

その言葉で一週間前の記憶が戻ってくる。
男子校、と聞いて不安になったあの夜を。

「…悠子、どういうことなの？」

「あ、お母さん…」

「玲子^{れいこ}、覚えてないのかい？まあ仕方ないことかもしれないね。気が動転してただろうしさ」

「あのね…お母さん…」

「芹羽を中退させるわけにはいかないから知り合いの理事長に事情を話したんだ。そしたら…あの悠斗様の学校に編入できることにな

「つたんだよ！」

悠斗様…？聞いたことがあるようなないような…。
誰だっけなあ…と考えているとお母さんが驚いたように言った。

「悠斗様ですって！！？あの？」

「悠斗様って？」

「芹羽、悠斗様っていうのはね…あの春原グループ^{すのはら}の長男だよ！」
「…え！」

春原グループといえば…外国でも有名な超一流企業だ。

万国共通と言っても過言ではないと思う。

だから聞き覚えがあったのか、と納得する。

でもまさか学校までやっていたとは…恐るべし。

「理事長曰く、たまたま男子校の理事長会みたいなものがあつたんだと。その場で話をしたら悠斗様が快く快諾してくれたらしくてね」

「それは素敵だわ！悠斗様の学校だなんて…芹羽、やったじゃない！」

「…男子校ってことに変わりはないわ」

そう言って私は部屋に逃げた。

確かに春原と関わりが出来るというのは素敵なのかもしれない。
だけど…それくらいの権力がある人と関われるくらいなら、どうして今までの学校に通わせてくれないんだろう。
それは無理にしても…どうして女子校じゃないんだろう。

私は、忘れかけていた現実と新しく突きつけられた現実とに混乱し、
また頭が痛くなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0158c/>

逆転生活～紅一点～

2010年12月3日21時29分発行